



毎月十五日発行 所 社 会 像 大 宗 像 定価 一年送料共 1000円

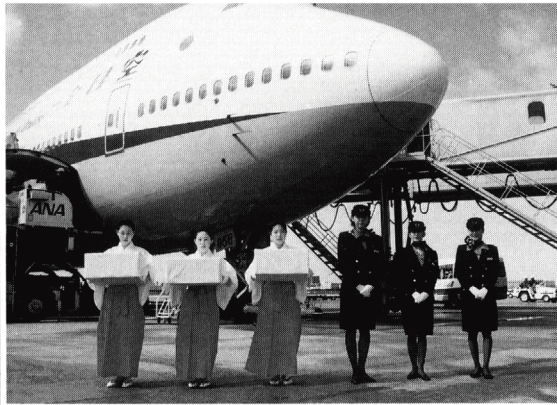
神具・装束 株式会社 井筒 本店 福岡市博多区東公園一三二番 電話(五)六五一九四五六番

皇室の弥栄を祈念し

早春の玄海若布を献上

宗像七浦の漁業関係者が示す赤誠

玄界灘の荒磯で採取された早春の玄海若布を皇太后高陛下、皇太子、同妃両陛下並びに賢所、献上し上げる。当大社奉納の儀は、二月十七日(金)無事執り行われ、宗像七浦の漁業関係者の皇室への赤誠が示された。



若布に謹製され、二月十三日各漁協5kgづつ、計30kgの磯の香も薫し、新若布が、当社へ奉納された。当天社へ奉納された。当天社は宮内庁の意向を受け、献上日を二十七日に決定、早速担当職、巫女により献上若布の奉製を開始、納められた若布を更に厳選し、献上品として相応しい最良品質の若布を選定すべく、奉製作業が続けられた。十六日には、模様に地元記者クラブが取材、一方、例年の事業を全面的に御支援いただいた。全日本空輸機並びに出光興産(株)への協力依頼を行うなど、献上への準備が着々と進められた。奉製作業は十八日無事終了、献上若布は杉目木の木箱三箱に丁寧に納められ、斎館特別室に保管された。

本空輸機(VIP室にて待機、この間に各報道各社の取材を受けた。取材を終えると、二便が擦染するANA A二五、一便のシツサイドにて、同機スチュワードス三名へ献上若布を託す手渡しを行い、当社巫女から手渡された献上若布三箱は、スチュワードスにより同機特別室に奉納された。空港での全ての諸行事を終ると、午後二時二十分、一行は空路東京へと向った。東京では出光興産(株)にて、献上の万全を期すべく最終点検を行い、翌日の献上を待つばかりとなった。

二月二十七日午前十時、一行は坂下門より宮中へ参内、掌典北島清一氏の案内にて、先ず小出掌典長に参内の旨を、若布献上にまつて参内の旨を、賢所に献上申し上げた。次に、池田侍従を通じて天皇、皇后両陛下へ献上申し上げた。

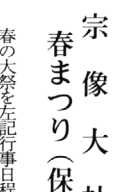
二月二十六日午前九時三十分、太田宮司、海洋神事奉賛会代表、司祭列のもの、若布献上奉納を齎行、献上の恙無きが祈念された。祭典終了後、太田宮司以下、白布に包まれた若布箱を捧持する巫女三名と共に直に当社社を出発、福岡空港へと向った。福岡空港では毎年格別の御配慮を賜っている全日

三月三十一日 午後五時 宵宮祭 大祭(氏子奉幣、主基、地方風俗舞、浦安舞) 二日 午前十一時 総社祭(献上若布採取、交遊会、講社祭) 午後六時 高良祭 献茶祭(南坊流小方社中) 三月十九日 午前九時 奉納道大会(於境内、本殿脇) 四月四日 午前十時 奉納吟詠大会(於清明殿)

宗像大社社務所 春の大祭を左記行事日程で厳行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいませよう御案内申し上げます。 平成十年三月吉日

宗像大社 春まつり(保存会) 御案内

宗像大社社務所 春の大祭を左記行事日程で厳行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいませよう御案内申し上げます。 平成十年三月吉日



宗像大社社務所 春の大祭を左記行事日程で厳行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

本年の若布献上者は左記の通りである。 宗像大社宮司 太田 可愛 権柄宜 高向 正秀 鐘崎漁業協同組合 組長 権田三喜男 理事 宮本 昭則 尚 本年の若布献上に際し、格別の御支援を賜りました全日本空輸株式会社、出光興産株式会社を始め、多数の方々に、紙面を以って厚く御礼申し上げます。



宗像大社社務所 春の大祭を左記行事日程で厳行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

三月と云えばひな祭り、三月と云えばひな祭り、おひな様、のかわいの子供の思い、結びに口づさむのもこの頃である。現在の様な「ひな祭り」が一般庶民に広がったのは、江戸時代、二代将軍秀忠の息女和子姫が後水尾天皇の妃となられ、天皇崩御後、福門院と称し仏門に入られた。



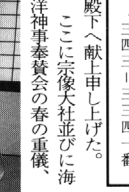
宗像大社社務所 春の大祭を左記行事日程で厳行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

この福門院が三月三日に「お守り」であった。ヒトカタ、カクシロと呼ばれる土人形であったと云う。東北地方は、今でも土のひな人形があり、お産の時親族が送る風習がのこっている。 江戸時代には男女雛の二体を飾ったと聞く。それが明治期になって段飾りとなり現在の様なひな段飾りになった。



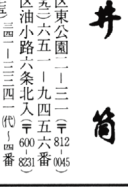
宗像大社社務所 春の大祭を左記行事日程で厳行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

又男雛が右か左か、の飾り方も、京都地方では真南に向って東の方が尊い、方位と云われ、正面に向って右側に男雛、左に女雛を飾る。現在に男雛を飾るに、左に男雛を飾る様になったのは、昭和四年、東京の「雛人形組合」で昭和天皇御即位の時の写真を元に飾り方を定めたというのをたもたそうである。いろいろもろく楽しい放送であったが、この飾り方の中に母が娘に家庭の家具の片付、出し方を教える大切な娘の教育が含まれていると聞いて、なるほどと感心した。



宗像大社社務所 春の大祭を左記行事日程で厳行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

自由ヶ丘 細川 縞子 干されたる湖底に残るブルドーザーの終わりの夕かげ曳けり (評) 湖底にあるブルドーザーを描写して大晦日の歌として出色。 福岡 中村 勇 八度目の年男と豆撒きぬ 拝殿横の假設台より (評) 自祝の歌。生きて今ある喜びが素直に述べられて捨て難い味わいがある。 田 久 井上 光 握蘇酒に眠りたる子の太き 掌に生命線の大々あり 現代は七十からの手習ひと 子は新しき「広辞苑」呉れ (評) 一首目は親の子に、二首は子の親に対する愛が詠われて、ほのぼのとさせて呉れる。 田 野 森 つるの 汝が父の戦ひたりしレトナ ムぞ子は悠々と親光にゆく (評) 世代の精神の断層の大きさを歯がみ思いで見ている母の姿が見える。 曲 天野 玲子 ここの話の話を言ひつづつ 大 声に焚火を囲み老いは語る (評) やや俗っぽさはあるが、農村生活の一断面をシニカルに捉えていて面白い。 庄 内 原田 衛 初雪の降り積りたる庭木々 是趣愛へし新しに立つ (評) 日里 石松 弘次 心障者に近寄り会話をす人 は目線に合せ腰屈めをり 田 野 森 甲子 生り過ぎて袖格落の温州 蜜柑きらきらぬまに鳥に喰 なるほどと感心した。



宗像大社社務所 春の大祭を左記行事日程で厳行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

第四二回 宗像大社歌会詠草 大野 展男 選 毎月25日(厳守) かなな声ふと聞きぬ梅の梢に 福岡 池浦千鶴子 寒風に若き教師の濁声ときをり閉こゆわが菜園に 日里 大和美由紀 水郷の川辺に咲きし黄梅は 春の日受けて光輝く 光 岡 河村 久光 空にひくく冬雲おおい凍り たる路に車の波濤続く 朝野 藤井 浩子 木々に雪積もれる朝吾が生 れし地の冬景色鮮やかに頭 町上津波西 有吉 陽子 勝浦の朝市は磯の香の強く 集まりし人の声に賑はふ 吉 留 高山 信子 すき間風吹くるさむき部 屋に坐し写経してをり心は のほの 土 穴 瀧口 敦子 人形もなき夕風さの浜に立 つ大原原に沈む日赤し 城南ヶ丘 中間日出子 もめし後妹があやまり言ひ たらばとんに我も後悔わ きぬ 武 丸 中村さつき 娘より貰ひし蘭鉢ふれ合ひ の部屋に咲き継ぎ季の長し 大 島 越智 治子 寒しまる山の社に詣でし日 あかはら鷹を木の枝に見る 徳 重 石松やす子 真夜中のくまらぬ程着ぶ くれれば陽の射す縁に濯ぎ物 干す 原 町 八波 五月 病みこり忘れてゐたのか 先月よりの締切日変更間に合わなかつた分です

年が明けて、また中学生の少年による教師殺害事件と、警官から拳銃を奪はうとした強盗殺人未遂事件が栃木と東京でたて続けに発生した。犯人は何と十三歳の中学生と、十五歳の中学生三年の少年だった。

しかしこれらの「犯人」は警察に保護され少年法に守られて罰せられることはない。日本中を騒然とさせた十四歳の中学生の「酒鬼薮重」による残忍かつ猟奇的な事件が発生したのは昨年の五月、それからまだ二年とたっていない。

学校の先生や警官といへば、それなりの権威があり、これら少年からは敬意を払われてしかるべき社会人のはずである。その大人たちが、これら少年の殺害と襲撃の対象とされるに至った点で事態は一層深刻といはねばならない。

筆者は昨年七月、例の神戸での事件が起きたあと本欄を借りて、少年による殺人などの凶悪事件の増加と低年齢化は世界的傾向で、今後わが国も避け難く、もっぱら少

### 紀元節を寿ぎ

## 建国祭齋行

### 皇紀二千六百五十八年



れられて行く現状を思う時淋しい気持ちになって来るが「日本の建国を祝う会」主催の式典には約千五百人が参集したと新聞は報じている。

今年は今上陛下御即位十年の歳であり、明治維新百三十年である記念すべき年に当る。こうして、筑前大島では、村をあげて建国記念日を祝い、「紀元節の歌」を合唱する姿は、すがすがしく誇り高き姿を感じます。

神武建国から二千六百五十八年の歴史を世界に誇り日本民族の原動力としてさらなる歴史を重ねて行く事が国民の意思です。「建国を祝う会」の記念講演で「コメ」に託して来日本への心、歴史、そして未来への可能性と題して講話された作家、郷土、農

二月十一日は、建国記念日である。全国津々浦々各神社で建国祭が齋行され、奉祝行事が賑わった。当社でも午前十一時より建国祭が齋行され、太田宮司が神武建国を寿ぎ、皇室

の歌を祈る祝詞を奏上し、又筑前大島でも奉祝祭を齋行し、祭典後、参列者全員で「紀元節の歌」を合唱した。また「高千穂の」に始まるこの歌の年毎に忘

年の保護と更生を目的とし、米軍の占領下だった時代に作られた現行の「少年法」は、はや時代遅れで早急改正されるべきであり、「少年法」から何しても罰せられない」といふ意識を改め、「少年といへども犯罪を犯せば、大人と同様にその責任と処罰は免れない」との意識を早くから植あつておくべき時代になったと主張した。しかしながら、あれだけショッキングな事件が起きてその後何人も無罪の犠牲者、被害者を出したにもかかわらず、行政当局も国会も少年法の改正に正面から立ち向かうとはしない。今回もほとんど問題にすらされていない。

事件が再発して文部省は、全国の都道府県教育委員会に対し、各学校で必要に応じて生徒の所持品検査を実施してもよいとの通達を出し、警察当局は文房具屋やサイバルショップなどに対して少年へのナイフなど刃物類の販売自粛を要請する一時的な対策法を打ち出した。しかしこの程度では役に立たない。人を殺すのはナイフで

## 少年法と大人の責任

生たちにとって、生徒を教師の命令に従はせる勇気を期待しても無理が多い。もしも強行すれば、先生と生徒のからうじて保たれてきた信頼関係はそれだけで壊れてその後の授業は保たれない。生徒の所持品検査にはよほどの工夫が必要なのである。犯罪の先進国アメリカでは、護身用にピストルを学校に持つてくる生徒に対し、ガードマンが校門で金属探知器でチェック検

るはずだ。そのカギを地球規模で考慮すればおのずから直は開けるのである。荒廃による心の破壊、等々が地球規模の問題になると指摘されている。二千六百五十八年の歴史の中に、今後の日本が、世界が進むべき道を示すカギがある様な気持ちで拝聞した。

## 山上の祭り

### 孔大寺神社祭

神郡宗像と遠賀郡の郡境に四塚連山が聳えている。この最高峰を孔大寺と云う。この山中に孔大寺神社が鎮座されている。孔大寺神社は、当社社撰の社の一で毎年三月一日の春季大祭には、奉幣使が参向し幣帛を献上している。今年の春季祭日は晴大に恵まれ、登山愛好者や参拝者で拝殿前は賑わいを見せていた。地元紙「ん」の話では、ふもとと連邦山と登山参拝者を含めた五百名以上に増加する参拝者に地元役

の現況を通し、今後の①人口爆発による食糧危機、②地球環境の破壊、③文明荒廃による心の破壊、等々が地球規模の問題になると指摘されている。二千六百五十八年の歴史の中に、今後の日本が、世界が進むべき道を示すカギがある様な気持ちで拝聞した。

の根本を間違っていない。そもそも学校で所持品検査をせよと命じられても、問題ある中学校などの教育現場では、教師の方が恐くて実施できないのが実状だ。大人並みの体格を有する生徒から「それは人権侵害だ」だの生徒のライバシーの「侵害だ」など言はれて抵抗され、その上体罰も一切禁じられてゐる今の非力な先

ではなく、あくまでも人(少年)であることの本根を間違っていない。そもそも学校で所持品検査をせよと命じられても、問題ある中学校などの教育現場では、教師の方が恐くて実施できないのが実状だ。大人並みの体格を有する生徒から「それは人権侵害だ」だの生徒のライバシーの「侵害だ」など言はれて抵抗され、その上体罰も一切禁じられてゐる今の非力な先



小さな花を付けてアオサキの枝

又、当日には準備の約二千段近い石段を登りさら山中の拝殿まで三、四回登る男性より、登山参拝者のおにぎりと、酢物、がめ煮等を作る女性と、地元一体の祭典奉仕である。この様な奉仕作業が連綿と続けられていく地方も少なくなってきた。

又、手作奉仕のお守り。は玄關、門等に飾り、一年の疫病除けを祈る風習は宗像の郷々に今もこのついでに祭典後の真会の際、地元氏子の中の人々の楽々とな奉仕を見て、文化伝承の重要さと大切さをあらためて身を感じた。

また、宗像大社選考中学校長会。去る三月四日午後、時より平成十年宗像大社奨学金受給者二十名の選考を行う中学校長会が開催された。毎年宗像市郡内中学校(二校)より男女各一名の高校、専門学校進学者に大社より奨学金が送られる。この大社奨学金制度は、今上陛下の御成婚を記念して、昭和三十四年十一月に作られ、翌三十五年四月二十九日に第一回奨学金が受給された。

宗像大社選考中学校長会。去る三月四日午後、時より平成十年宗像大社奨学金受給者二十名の選考を行う中学校長会が開催された。毎年宗像市郡内中学校(二校)より男女各一名の高校、専門学校進学者に大社より奨学金が送られる。この大社奨学金制度は、今上陛下の御成婚を記念して、昭和三十四年十一月に作られ、翌三十五年四月二十九日に第一回奨学金が受給された。

現在、政党政治家の中で、官僚公務員に対する「倫理法」制定の動きが現実化しようとしてゐる。これまで何度もやっていたことではあるが、要は、いまの時代でもうだが、将来ある子供たちの師範となるべき大人の姿、その日々の生き様に根源的な問題が存してゐることを認めざるを得ない。

根本は、戦後の占領憲法体制を問正さねばならぬ問題ではあるが、とくにバブル崩壊以降日本現象、政治家の倫理腐敗、大蔵官僚を頂点とする公務員モラル喪失、総会屋に操られる企業経営者たち、さらには恥しい事件を引き起こす教師や警察官たち、そして大人がつくる問題の多い現代のテレビ番組やビデオ、ゲーム、映画や雑誌の世界、これが少年の精神に大きく影響して少年犯罪を助長してゐる現実を直視して改めたい。

福間、津屋崎の中学校で各級一名の受給者であった。昭和四十年第一期の時より各校一名となり、さらに四中学校が出来た。目的は河東、自由ヶ丘、福岡東。現在十校より中学校長の推薦により、二名の学生が選ばれ、五五六名の奨給生を生んでいる。今年四月二十九日には、新しく選ばれた新高校生、専門学校生が神前に集い奉告祭を齋行する。

またこの四月二十九日に定められたのは、昭和天皇様の御誕生日(現在みどりの日)を記念して定められた。今年度で第三十九期を迎えて、大社奨学金受給生は五七六名になる。社会にいられて、外国で活躍している人、会社の中で堅と努力されてゐる方、又地元発展に尽くしておられる人々、さらに現在大学で頑張っている先輩達も多い。鳥での神祭りは海神への海の安全への祈りであり、海神の祈りである。海を渡る人々の願いが込められた形代類(人形・馬形・舟形)

第一期生の人々は五十一才となられる。孫の手を引いておられる方もおられる。

## 一話(67) 古代の海上航路(2) 楽 太 子

北部九州と朝鮮半島や中国大陸とを結ぶ東洋海上の海上の道は、「海北道」と呼ばれ、早くも古の公人の倫理問題の本質に、国政を動かす政政治家自身のモラル問題が大きく横たはってゐることを忘れてはならない。そもそも法は外部に表れた行為を処罰するものである。刑法はじめてとする既存の刑事法の罰則が、今日の見地からみれば、すべからず甘きに過ぎる点こそが問題なのだ。

残念ながらわが国も、優良なる個人の人権や社会秩序の防衛の見地から、現時点では少年法の改正も含めてあらゆる刑罰法規の適応範囲の拡大と罰則強化をめざす方向に進むしか、担保する道はないやうに思ふ。(神社新報)

沖ノ島の古代祭礼も、約六〇〇年に渡り行われてきた外交交渉時に於ける大和朝廷との合同祭礼だけではなく、玄界灘を生活の場としていた古代海上の民、宗像海人族独自の祭礼も多く行われていたと云う。その祭りの場として作られた祭場、二三の朝廷祭礼の大祭礼に對比される小祭場が、多く残っていることが推察出来る。この様に考えると、今でいう氏神信仰的な祭りが、小規模祭礼として小さな祭場で行われた。この祭場は大和朝廷との合同で行われた祭りの大祭場、取り囲まれた形に形成されたであろうか、または現在の二三の祭礼とは場所を別にして、小祭場群として固りを成しているかは不明であるが、発見される事も可能である。興味がいこの事は、次代の神道考古学への学問研究の課題でもある。



宗像大社歌会  
俳句作品集 四二八

自由ヶ丘 細川 桐子  
冬山をわがもとと舞う武者  
絵

小笹 山下しづえ  
節分や誘いだされし黒田節  
間

藤沢 井上 玄洋  
大南潜水ば香梅の花

東郷 三浦孝子代  
寒月の閉りほのかに赤く染  
む

東郷 有吉紀子  
丹前の結びしま寒の月

東郷 田中 雨葉  
寒月や愛蘭機紐の振れく  
せ

東郷 大原 厚子  
一句欲し又寒月を仰ぎけり

東郷 吉武 湧泉  
天心に寒月ゆき鳥眠る

東郷 中野 きみ  
寒月を遮るこよ深庇

東郷 吉田 鈴子  
さびさびと寒月の光を身に

東郷 吉田 杏子  
寒月を仰ぎて遠き娘を案す

日の里 花田いつ枝  
狩衣の裾も濡れけり和布刈  
欄干



(続)

浜の寄物

124

いしいただ



津州島の海岸にて

北長門海岸における朝鮮人の遺物数は約三三六年前(保元から明治三年)まで。前年では生保、昭和となつてたが、正保、明治の誤植で七八件、一五九二名にのぼっていること

は前号で述べた。風と海流に乗れば必然的に海岸へ流れ着くのである。今もおびただしい朝鮮からの漂着物が多く見られる。下関市の隣郷小瀬谷地から人面、製品や陶器、土

節が、握栗遺跡では多鈕細文鏡、細形銅剣、神田地蔵堂遺跡から蓋戸、内行花文青銅器が豊富に見られる。北長門では豊浦町の山の神遺跡から最古の鑄造鉄製鋤先、油谷町の向津具遺跡から有柄細形銅剣が発掘され、大陸・朝鮮半島との結びつきのある遺物類である。

島(豊北町史) 豊北町土井ヶ浜遺跡は第十一次に及ぶ調査によつて約三百体の人骨が発掘されてきた。松下孝幸は「日本人と弥生人」(祥伝社)の中で海に顔を向けて眠る三百体の弥生人として、「三百体の頭蓋に空いた六〇〇の暗い眼窩は遙か彼方の広大な大陸を見つめているのか、なぜ彼らは顔が大陸に向かうような形で埋葬され

たのだろうか」と言っている。ふることを意識して埋葬されたのであろうか。油谷町には楊貴妃遺物の伝説もある。一月末には中国からの密航者も上陸(毎日新聞)している。さて昨年十月末のこと。宗像地域国際交流連絡協議会(ふねの会)会長長深田都江氏が韓国済州島へ研修旅行をするというので同行させていただいた。済州島は朝鮮半島本土から南九〇キロ沖東シナ海に浮かぶ島である。古くは耽羅と称していた。対馬暖流が流れ気候は温暖である。島の中央には韓国最高一九五〇メートルの漢拿山がそびえ、三六〇余りの寄生火山と七〇余りの窟石洞窟があり世界的にも珍しい地形は変化に富み風光明媚である。観光開発もすすみ牧場、釣り、射撃、ゴルフ場も多く新婚旅行のメッカでもある。

済州島民俗民俗博物館は島の自然や風土、民俗がよく理解できた。図録も立派なものがあつた。日本語の解説がついていて、ここで冬の玄界嶺に漂着するツデイカの立派な標本が岩礁の所に漂着物がついていて、小ざく破片になっていたがアオイガイ(カイダゴ)を拾ってきた。漂着物には中国製品の漁具類も見られた。

また側に、荒船社(蛭子社)あり。岩崎の(下)を御手洗といふ。岩間に浪の打っている所あり。其海に船の形したる岩瀬二あり。荒船石といふ。あらふねの神をいはふよしへり。夫木集物名に。葦も葉も皆みどり成る。あらふねのみや。白くみゆらん。とよみしは、爰のこと也。と貝原翁いへり。正三位行方坂路五六丁ばかり登り行ほど、目のめもみえぬ迄立止しけれり。宮地は一の嶽の麓、大きな巖の物の足のごく三ツ峰たるはさまにおはします。シテ(紙垂・紙手・四手

を結び付けている繩、シメナワ(注連繩・メ繩)を張り廻らされる神聖地、ここは神様が一時降臨される依代である。祭場とされたこの地で祭りは執り行なわれる。記・紀にみる「丹寸手・和幣」はいまも繩に結すぶシテの原形をなすと言われ

青柳種信著 瀛津島防人日記(上巻ノ八)

※此嶋に来る例。七日の間朝ごとに潮にみそきて、その間山中に入ることをなし。七日に当る日に、正三位社(至賀の神を祟るといふ)にまゐりて、八日に大神の宮にまゐる。毎朝海水を浴して正三位社にまゐるとは、其後もかほることなし。大神の宮には、つねはみだりに参らず。神威を恐れても

ぐらにとて、豊後国風土記と、延喜式の大坂の老とを写して奉る。十五日(四月)。けふは物忌の七日といふ日なり。いまだ明もやらぬにおいでて。おまつし。磯もとゆるした浪に新防人い。みそきするかも神司は、あすなん日例の祭つかへまつるべきとて。祭あり。神主大しまより渡海す。祭日は定まることなし。渡海の第八日に

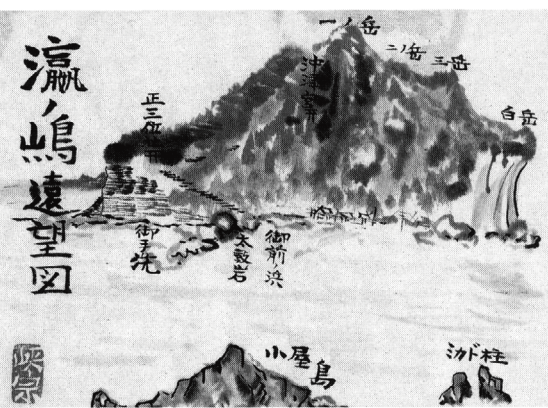
あたる日よりままつるをなす。海人もをみて、瀛津島に魚つら。さき、狭、魚たにえず。神の御心や和らぎ給はぬ、などいひあへり。日もくれなるとするころ、おい(鮪)をちふもの三さ(尺)かあまりあるを二つり(釣)あげた。神官のよるこび、いはんかたなし。

また側に、荒船社(蛭子社)あり。岩崎の(下)を御手洗といふ。岩間に浪の打っている所あり。其海に船の形したる岩瀬二あり。荒船石といふ。あらふねの神をいはふよしへり。夫木集物名に。葦も葉も皆みどり成る。あらふねのみや。白くみゆらん。とよみしは、爰のこと也。と貝原翁いへり。正三位行方坂路五六丁ばかり登り行ほど、目のめもみえぬ迄立止しけれり。宮地は一の嶽の麓、大きな巖の物の足のごく三ツ峰たるはさまにおはします。シテ(紙垂・紙手・四手

を結び付けている繩、シメナワ(注連繩・メ繩)を張り廻らされる神聖地、ここは神様が一時降臨される依代である。祭場とされたこの地で祭りは執り行なわれる。記・紀にみる「丹寸手・和幣」はいまも繩に結すぶシテの原形をなすと言われ

この時、この時期の大和の国での内陸の祭儀は、神籬・磐境での祭りと、石垣いにより祭壇を作つて行う自然祭から、宮殿や寺院を模倣して造つた社殿で行なう祭り、神社祭礼へと移行して行く。丁度祭礼様式変遷の過渡期にあつた。

沖ノ島の巨紋鏡は、種々の出土品をみていくと、奉獻品の主体を雛形がなすことより、原始信仰の祭祀が末期的であるが、古典祭祀そのものが、持続して行われ続いた遺跡と言えるし、いまにもその時の様相を垣間みれる様である。



室栽培だがパイナップルも店頭で多く売られているのは驚いた。城山邑(邑は日本の町・面は村)の日出峰へ行ったが、標高わずか一八二メートル、真径約五〇〇メートルの外輪山が大きな口を開けている。ここからの日の出は済州島十三景の第一景といふ。日出峰へ行く途中新瀛海水浴場付近でバスをおりたから海岸に通じるところで、椰子の実が落ちていた。漂着したもの、他のゴミと一緒に焼いたものであろう。表面が一部黒く見ても驚き、何を食べても美味しかった。済州島民俗民俗博物館の女性が美しい声で「椰子の実をたれれりあがつた。更に済州島へ戻る北側の細花・金寧あたりの海水浴場近くでも、バスを停めてもらったが、松本肇氏が岩礁の所に漂着物がついていて、小ざく破片になっていたがアオイガイ(カイダゴ)を拾ってきた。漂着物には中国製品の漁具類も見られた。

また側に、荒船社(蛭子社)あり。岩崎の(下)を御手洗といふ。岩間に浪の打っている所あり。其海に船の形したる岩瀬二あり。荒船石といふ。あらふねの神をいはふよしへり。夫木集物名に。葦も葉も皆みどり成る。あらふねのみや。白くみゆらん。とよみしは、爰のこと也。と貝原翁いへり。正三位行方坂路五六丁ばかり登り行ほど、目のめもみえぬ迄立止しけれり。宮地は一の嶽の麓、大きな巖の物の足のごく三ツ峰たるはさまにおはします。シテ(紙垂・紙手・四手

を結び付けている繩、シメナワ(注連繩・メ繩)を張り廻らされる神聖地、ここは神様が一時降臨される依代である。祭場とされたこの地で祭りは執り行なわれる。記・紀にみる「丹寸手・和幣」はいまも繩に結すぶシテの原形をなすと言われ

この時、この時期の大和の国での内陸の祭儀は、神籬・磐境での祭りと、石垣いにより祭壇を作つて行う自然祭から、宮殿や寺院を模倣して造つた社殿で行なう祭り、神社祭礼へと移行して行く。丁度祭礼様式変遷の過渡期にあつた。

